ウヨロ川周辺の田園景観を残そう

ウヨロ環境トラストだより

第30号
2009年1月1日発行
NPO法人ウヨロ環境トラスト
〒059-0902 北海道白老町若草町1-11-7 河野功方
TEL (0144)85-2852 FAX (0144)85-2856
http://www.shiraoi.org/trust/
E-mail: trust@shiraoi.org

設立八年目の新年を迎えて
明けましておめでとうございます

トラストに関係する皆さま、新年おめでとうございます。

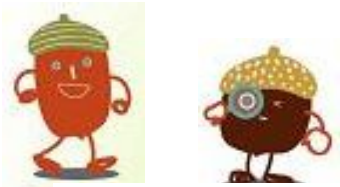
昨年は、設立時から積極的に活動してこられた佐藤辰男理事が９月に急逝されました。また、何人かの役員が手術を受けるなど体調を一時崩されるという事態にも見舞われましたが、トラストの活動はほぼ予定通り進めることができました。

このような中で、大きな事業としては林野庁助成の未整備森林緊急公的整備導入モデル事業に昨年度に引き続き作業班を組んで取り組み、放置された他の森有者の皆伐間近の大木の森林の整備に挑んでおります。他の地域ではプロ以外の人がほとんど参入しないと言う本格的な林業の分野に携わるという、ウヨロ環境トラストの気概はプロの方達にも大きな刺激を与えるものと思います。

また、昨年はウヨロ小屋近くで炭焼きの伏焼きに坂本会員が中心となって取り組み、行事の昼食時に使える木炭を作ることに成功しました。フットパスでは、会の秋の行事と組み合わせて案内したり、町外からの団体やエコツアーなど多くの人に利用されるようになってきました。ただ、利用者の増加に伴ない、コース途中の牧場と十分協議して利用方法や管理について検討を進めることが迫られています。

トラストの例会は、作業を通して会員同士が汗を流し、心穏やかに交流できる場でありたいと思います。また、自然との触れ合いなどトラストの目的に沿った企画の活動も、互いに理解し認め合って、はじめてよりよい方向が拓けるものと考えます。今後は、このトラストの森やウヨロ川周辺の地をさらに活用し、設立時にそれぞれが思い描いた原点を見失わず、自分達の森として楽しもうではありませんか。

２００９年元旦
ＮＰＯ法人ウヨロ環境トラスト理事長　齊藤春生


北の里山事典キャラクター

ウヨロ小屋

「たき火開き」のご案内　(たき火の会共催)

新年恒例のたき火開きを行います。会員のほか、トラストの活動に関係のある方、たき火の好きな方など多くの人の交流の場として今年も行います。希望者は、午後から森の探索を行います。

日時　1月4日（日）10:00～13:00　（希望者は15:00まで）
場所　トラストの森　　差し入れ持参大歓迎
内容　火おこし、森の掃除、「森を語る」集い
会費　６００円（昼食代）　もち入り「焚き火鍋」の予定です。
連絡　1月3日（土）午前まで、ﾒｰﾙか電話を（上記ﾄﾗｽﾄ事務局）

活動日にとらわれず遊びにきて下さい

トラストの森は会員みんなの森です。ウヨロ小屋やマキ・ストーブもいつでも利用できます。

散策、自然観察、雪遊びなど、家族や子どもさん、知人などを誘って遊びに来てください。

ＴＶ放送された番組が、インターネットで見られます

11月8日放送の、トラストの活動を紹介した道民カレッジ講座が見られます。
http://manabi.hotnet.co.jp/prg06.html（森と人がつくる未来パート4)

トラストのブログで、ウヨロ川周辺の自然情報を提供しています。
http://www.econakoto.net/uyoro

（ 当面の活動日程 ）

1月　4日(日)	10:00～13:00	(ﾄﾗｽﾄの森)	たき火開き 新年の挨拶をして、純粋にたき火を楽しみましょう
1月２５日(日)	9:00～15:00	(ﾄﾗｽﾄの森)	例会　除間伐等ボランティア作業
2月１５日(日)	9:00～15:00	(ﾄﾗｽﾄの森)	例会　除間伐等ボランティア作業
2月２２日(日)	10:00～15:30	(ﾄﾗｽﾄの森)	冬のデイ・キャンプ(小中学生対象)　運営ボランティア募集中
3月１５日(日)	9:00～15:00	(ﾄﾗｽﾄの森)	例会　除間伐等ボランティア作業、午後から自然観察

会員数48人(正会員39人、準会員7人、賛助会員2人) 1月1日現在

別紙PDF「深呼吸の旅８」は、花新聞vol.208から抜粋

鮭の遡上を見ながらウヨロ川フットパスを歩く

JanJan> コラム > ライラック通信　戸谷嗣哉 2008/12/14

１０月末に２年ぶりに白老町の NPO 法人ウヨロ環境トラストを訪ね、間伐などのボランティア作業を行った筆者。作業後はジンギスカン鍋を食べたり、鮭の遡上を見たりと、盛りだくさんであった秋の１日をレポート。

カラマツの枝打ち

ウヨロ環境トラスト

晩秋の10月26日（日）2年ぶりに白老町のウヨロ環境トラストを訪ねた。NPO 法人同トラスト主催の「北の里山人工林間伐ボランティア体験会」に参加するためだ。カラマツ林で枝打ち作業を行ったあと、午後から、ウヨロ川フットパス（14km）を歩き、鮭の遡上と目の前で自然産卵する生命の営みを観察、感動を新たにした。

北海道の南西部に位置する胆振地方のほぼ真ん中にあるのが、白老町。製紙のマチ・苫小牧と鉄のマチ・室蘭の中間にある。北海道の里地、里山と呼ぶのにふさわしい豊かな自然が残っている田園地帯だ。JR 利用なら札幌から特急で1時間で行けるが、道庁赤れんが庁舎前から無料の送迎バスが出るというので、これを利用させてもらった。午前8時、定員30人を乗せたマイクロバスは、道央自動車道をひた走り、1時間半で現地に着いた。

2年前にはなかった、ドーム式の集会所が出来ていた。屋根付きで、壁はなく、吹き抜けになっている。同トラストは、活動の一環に小学生らにキャンプ生活を通じ、自然教育も行っているが、今年の夏は、生憎、行事の3日間、雨にたたられ、ドームの中にテントを張って森の生活体験をさせたそうだ。左側にまきも燃やせる大きな炉もあった。幸い雨の心配はなかったが、われわれの開会式もドーム内で行われた。

環境トラストは、2001年、ウヨロ川流域の景観と自然環境の保全を目的に有志がお金を出し合い、本部にあたる大きなログハウスなど関連施設があるトラストの森2．2ha と周辺の山林5．8ha、合わせて8ha を取得した。他に手入れをせず、放ったらかしにされているカラマツ林の“不在山主”と間伐材などを利用させて貰うことを条件に、森の手入れをする契約を結んだ協定地8．8ha がある。

カラマツなどの針葉樹は、比較的、成長が早く、樹齢40－50年で成熟し、製材として利用できる。しかし、植樹して5－7年、苗が周辺の草丈より伸びるまで、下刈り、ツル切り、隣り合う木の枝や葉が重なり合う大きさになると、枯れ木から病害虫が入るのを防ぎ、材木に節が現れないよう枝打ち、そして発育の悪い木や成長を妨げる木を取り除く除伐、間伐という作業が不可欠だ。

高度成長期、“投資”目的に大量に植えられた針葉樹が成熟期を迎えているにもかかわらず、コスト面で引き合わないため、野放しにされているのが現状だ。

インストラクターの指導で、ヘルメットをかぶり、軍手をつけて、付近の森に入る。用意された柄の長さが2－3m もある鋸を持って下の方に張り出したり、枯れた枝を切り落とす。夢中になって作業していると、上の方ばかりに注意がゆき、足下が疎かになる。「足を倒木にかけたり、丸太に乗ったら危ない！」後の方から、注意の大声が飛ぶ。われわれ素人には無理だが、チェーンソーを使った間伐作業を見学する。間引く木の選び方、倒す方角の決め方など• ⸝。高さ30m の木を切り倒すさまは、危険も伴うが、豪快そのものだ。

1時間余の体験学習を終え、ログハウスの横にある野外の炉の前に集合する。お楽しみの昼食だ。前浜から箱で届けられたイカを下ごしらえして、金網に並べる。鉄板の上からは、前日、狩猟が解禁になったばかりのエゾシカの肉を焼く香ばしい匂いが流れてくる。ジンギスカン鍋には、うどんも投げ込まれている。焼きたてのピザや焼きおにぎりもあり大きな紙製の皿に、次から次に好みの食べ物を載せパクついているうちに、すっかり満腹してしまった。野趣あるメニューで昼食代は千円だった。ごちそうさまでした。

一休みしたあと、ウヨロ川フットパスのウォーキングに参加した。 ・・・・・・・・・

この続きは、インターネットの Web サイトのJanJanニュースのコラム(ライラック通信)でご覧になれます。
http://www.news.janjan.jp/column/0812/0812130412/1.php